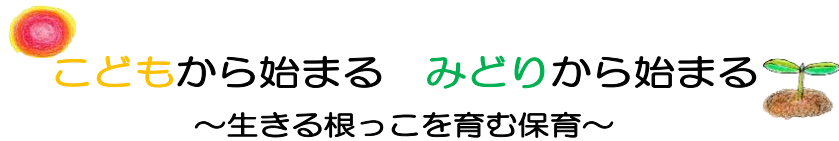


幼保連携型認定こども園宮崎学園短期大学附属清武みどり幼稚園



## 「まこと先生だより 第10号」

### ○専門家による年齢毎の絵本の読み聞かせと先生方の研修を行いました。

ご案内していますように、清武みどり幼稚園とみどり幼稚園は、今年4月から21世紀型の新しい教育・保育を目指し、宮崎学園本部・宮崎学園短期大学・宮崎国際大学等と連携して導入を進めています。

今年度は特に、専門的に実践されている県外で活躍されている有名な講師のご指導をいただき「保育環境改善プロジェクト」を導入して、園内外の保育環境の工夫改善に取り組んでいます。子どもたちが夢中になって遊べる玩具の選定、子どもたちの保育室の環境の改善、そして子どもたちが大好きな「絵本の読み聞かせ」について勉強をはじめました。

7月26日の夜は、先生方が絵本の読み聞かせについての学びを深めるとともに、27日はそれぞれの保育室で講師による絵本の読み聞かせを直接経験させていただきました。講師による読み聞かせの経験をして先生方は改めて絵本の読み聞かせの素晴らしさを実感しました。今回の絵本の読み聞かせの勉強会等につきましては、9月の「こどもえんだより」でも詳しくご説明いたします。

なお、文書で調査しましたように、来月から定期的にお子様の一生の宝となる絵本が送られてきます。積極的に絵本の読み聞かせをしてまいります。



0歳児いちご組の様子



1歳児みかん組の様子



2歳児ちゅうりっぷ組の様子



3歳児の様子



4歳児の様子



5歳児の様子

### 「絵本は子どもの宝物」～クシュラの奇跡～

「クシュラの奇跡(ドロシー・バトラー1984)」をご存知でしょうか。複雑な障がいを負ってニュージーランドに生まれた「クシュラ」という女の子の“生きる”戦いの記録であり、その成長に関わった数多くの絵本の物語です。

クシュラは、染色体異常で脾臓・腎臓・口腔に障がいがあり、両親は絶望的な日々を送ります。しかし、両親は懸命に治療法を模索しました。母親は可能性を信じ何の反応も示さないクシュラを抱いて絵本の読みきかせを始めました。昼も夜も眠れずにむずがるクシュラとの長い時間を埋めるために母親が始めた読み聞かせに生後4か月のクシュラが強い関心を示しだしました。3歳までに母親がクシュラに読んであげた絵本はなんと140冊だったそうです。

一人では見ることも物を持つこともできないクシュラにとって、母親が読み聞かせる1日14冊の絵本により、クシュラは豊かな言葉を知り、広い世界へ入ることができました。5歳になる頃にはクシュラの知性は平均よりはるかに高くなり本を読めるようになりました。2012年現在クシュラは40歳になり「ずっと勉強を続けなさい。」と言う母の遺言を守っているそうです。クシュラが重度の障がいがあるにも関わらず水準以上の発達を遂げたのは、両親の愛情と援助が一貫して与えられた環境の中で“言

葉と絵の宝庫”である絵本に触れたことによるものという推測があります。(内田 1996)

ところで、読書活動は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。しかし、今日の子どもを取り巻く環境は、少子化や核家族化に伴う地域社会のコミュニケーションの欠如に加え、テレビゲームやDVD等の多様なメディアの普及、インターネットや携帯電話に代表される情報ネットワークの広がりによって大きく変容しつつあり、これらのことから子どもの読書離れが指摘されています。

小学校入学前の子どもにとって絵本は宝物です。言葉がわからなくても文字が読めなくても、絵本には夢があります。希望があります。そして何よりも絵本という短い物語の中には、勇気や思いやり、愛情、友情、挑戦等、これからの複雑な社会を生き抜いていく子どもにとって重要な学びがあります。そして、時にはクシュラのように奇跡を起こします。

特に、小学校入学前の子どもにとっての読み聞かせは、幼稚園等での先生との信頼関係を深めたり、親の愛情を感じたりするなど素晴らしい効果があります。また小学校での読書に親しむ習慣と態度の基礎を育みます。“絵本は子どもの宝物”です。社会は急速にデジタル化に進行中ですが、絵本というアナログの素晴らしさをぜひ親子で体験してほしいと願っています。

絵本の読み聞かせを園内においても積極的に進めてまいります。ご家庭でもどうぞ絵本の読み聞かせをお願いします。 清武みどり幼稚園長 まこと先生より！